

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700071		
法人名	高砂ライフケア株式会社		
事業所名	グループホームゆう きの家		
所在地	多気郡明和町齋宮3816-24		
自己評価作成日	令和3年 9月 21日	評価結果市町提出日	令和3年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2492700071-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 10 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設名の「ゆう」、「き」の家」がひらがなの理由は、見た人、聞いた人によってイメージがそれぞれ違う。「その人の個性を大切にしたい。」という想いが込められています。その事を理念に掲げ、認知症となっても、その方らしく笑ったり、泣いたり出来る。なるべく当たり前のことが当たり前のよう出来て、満足した生活を送ってもらえる様に取り組んでいます。生活保護受給者も受け入れ可能な体制を持っています。また、今年から外国人技能実習生の受け入れも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは明和町の中心部に位置し、周囲にはスーパー・郵便局・役場等があり、生活するのに大変便利などころである。利用者一人ひとりの個性や生活歴を尊重した介護に努めており、職員からの働きかけより利用者から発せられる希望や要求を大事にして、なるべく思いや意向がかなえられるよう介護に従事している。今年7月からは介護アプリを導入し、利用者への介護内容や利用者から聞き取った希望等はその場で入力し、いつでもどこでも情報が共有され希望等が実現できるよう取り組んでいる。コロナ禍のため家族と思うように会うことができない利用者には、窓越しの面会や離れての面会等も行い、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮している。外出もコロナへの予防策を施し、買い物や周辺への散歩にも出かけている。入居者が安心して生活できるよう工夫した介護を考え、実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名の「ゆう」から想起される(you…あなたらしく、を大切に)を運営方針にしており地域の方、どんな方でも相談に乗る様に心がけている。ミーティングでも理念に基づいて話し合いを行っている。	理念である利用者一人ひとりに適した生活を過ごしてもらうため、日常の会話や生活歴からもその人らしいものを探っている。コロナ禍でも買い物希望する方には、感染予防して出かけることも支援している。家族にも理念の書いた書面を渡し、支援方法を共有し、個人を大切にした介護を実践しようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域のイベントや地元中学校の職場体験等中止となり、交流はできていない。子供を守る家への登録を継続している。近隣の方と会った際は、必ず挨拶するよう心がけている。	コロナ禍のため、以前のようにホーム主催の納涼祭を行ったり、近隣住民と入居者との交流する夏祭や中学生の職場体験はできなくなった。しかし、散歩や買い物等を通しての交流は行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や老人会のイベント参加、中学生の職場体験を通じて認知症の理解や支援の方法を伝えていた。現在はコロナ禍により外部との接触が難しく出来ていないが、収束した時は今までのように交流を図りたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・家族様・自治会長様・老人会長様・民生委員様の参加は継続できていた。現在はコロナ禍により、運営推進会議は2ヶ月に1度書面にて報告している。	地元の民生委員・自治会長・老人会会長・家族・入居者家族からなる運営推進会議は、コロナ禍のため開けていないが、書面にてホームの様子については定期的に連絡し、いつでも意見を聞ける体制にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退きの報告や事故報告書の提出、町主催の地域連携推進会議への参加を継続し、他施設とも連携を図っている。	町主催の地域連携推進会議にはホームのケアマネージャーが参加し、役場職員や社協、他の施設職員との連携に取り組んでいる。また、会議での討議内容は、職員に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止マニュアルを職員全員に配布し基本的な知識の共有を図っている。不適切ケアや声掛けに関しては管理者を中心に職員同士が現場単位で話し合っている。また身体拘束委員会を3ヶ月に1度行っている。玄関が道路に面しているため、入居者の安全を考え止むお得ず玄関の施錠はおこなっている。	身体拘束委員会では、改めて玄関の施錠の必要性について議論したり、日常の介護中に間違った対応をしていないか等、職員も管理者と一緒に協議し、拘束の無い介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体、心理、経済、性的、ネグレクトの5大虐待の学習。虐待に到るまでのグレーゾーン、不適切なケアについて特に注意を払い、言葉がけひとつから自身を省みて間違いがなかったか常に意識するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者はいるが、制度についての必要性や理解について全職員への周知はまだみだである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法改正における単位数の変更及び処遇改善加算や夜間支援体制加算、サービス提供体制強化加算など変更点がある場合は必ず書面にてご説明をさせていただき了承をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはその都度、ご家族様には来所時や電話にて、遠方の方には電話を中心にご意見要望を伺って運営に反映させている。日頃の入居者様の様子をまとめた発行物は年4回(3ヶ月に1回)に送付している。	コロナ禍のため、家族が面会のためにホームを訪れることが少なくなったので、以前のように意見を直接聞き取ることが難しくなったが、電話等で聞き取るように努めている。また、定期的に通信を出し、ホームの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者ミーティングの内容をフロアミーティングで報告し、意見や提案を聞く機会を設けている。普段からもユニットごとで、管理者を窓口に意見を聞くようにしている。	現場職員と管理者で行うフロアミーティングで出てきた意見は各フロアの管理者と統括管理者で構成される管理者会議でも検討され、ホームの運営に生かされている。また、職員が生き生きと働けるよう、管理者は日々職員とのコミュニケーションを大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場業務に携わっているため、業務上の悩みは、その場で話し合うようにしている。また日頃よりコミュニケーションをとり、話しやすい関係を築けるよう心がけている。勤務時間、貢献度等を加味し加算として給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT及びネットを活用した社内研修・外部研修を積極的に行うことで、職員一人一人のスキルアップ出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの開催する地域連携推進会議に、担当者が参加し交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時になるべく多くの情報収集と、信頼関係を築けるように心がけている。入居前の居宅に訪問し要望を聞く機会を持つ、部屋の間取りや生活の様子を見せて頂くなど。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に施設見学に来ていただける様に配慮している。事前面談を行い、家族の不安や困っていること、要望を聞く機会を持っている。利用初期の段階では、ご家族との連絡は密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや実調の際にご本人やご家族様の両方から要望を伺ったり、在宅ケアマネージャーからのご意見を伺ったりしながら、現在どのような支援が必要か見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気や環境を重視して、目の前で料理やおやつを作り一緒に食べたり、洗濯たたみをしている。お互いに感謝したり、思いやりの気持ちを持てる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会は控えてもらっているが、電話で近況報告を行い、これからの方針や家族様の要望など話し合いより良いサービス提供につなげるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの人が気軽に来られるように面会時間の制限は設けておらず、また要望があれば職員が送迎支援をし帰宅支援をおこなっていたが、コロナ禍により現在は控えてもらっている。	馴染みの人や場所との関係継続への支援は、コロナ禍のため難しくなったが、家族との電話での会話、窓越し面会等も必要に応じて行い、完全に途切れないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させない様に、また、よい関係を築ける様に職員が間に入ったり、利用者の性格や個性の把握、環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主治医、ケアマネジャーとも連携を取り、新しい入居先の相談や支援に努めている。転居による退去後も事務手続きの相談に乗っている。ご逝去により退去された後も、一周忌のお参りをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中の昔話や直接本人からの意見を聞くなどして希望の把握に努めている。見当識上、困難な方においても、生活のいろいろな場面から、本人の思いを汲み取れる様に努めている。また知り得た情報は、職員間で共有しケアに活かしている。	発語できない方からの意向は、表情の読み取りや生活歴から推測するようにしている。また、帰宅願望の強い方には一緒に出掛ける等を行い、本人に寄り添った対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の方、在宅時のケアマネジャーから様々な情報を入居前から、入居後も適宜得る様にしている。在宅時に使用していた愛着のある物を置き、安心して生活して頂けるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・介護記録アプリ・ケア会議の記録などから、情報を得よう努めている。日々の生活やレクの中から利用者の希望を聞き出すように努め、職員が把握できるよう毎日申し送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々現場単位でケアについて話し合いを行っており、毎月のミーティングでも課題やケアについて検討してカンファレンスに反映させている。またカンファレンスではケアマネを中心にモニタリング・評価を実施し、それを元にケアマネが家族と話し合い介護計画の調整をおこなっている。	日常的に入居者の立場で介護は提供されているが、介護計画を認識することなく行われているため介護の方向性が意識されず、その場その場の介護となっている。	個々の介護の意味や方向性を確立させるために、また、介護の中身を振り返るため、介護計画を業務の中でより効果的に活用していくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間共に支援経過を記入するようにしている。介護記録アプリも導入し対応した職員が入力するようにしており、適正な介護計画の立案に使用出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により外出は控えているが、病院受診等の付添をしている。また受診付添いのための家族の迎えや、退院時の迎え等も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会より地域行事やボランティアの紹介してもらったり地域資源の把握には努めていたが、現在はコロナ禍により活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と2週に1回の往診を基本に連携しており、状態変化時にも気軽に相談できる関係を築けている。また、必要な診療機関には家族の協力を得て受診している。	医師による訪問診察を2週間に一度受けており、その際には職員が日常的な様子について医師に説明している。また、それ以外の受診は家族が通院同行しており、家族に日常の様子を伝え受診支援している。訪問看護師も2週間に一度訪れ、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回訪問看護師に来てもらい、体調面での些細な変化でも気軽に相談し適切な受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者様の情報提供、共有が出来るように看護サマリーを準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの出来る事、出来ない事をしっかり説明し契約を行っている。また本人の状態に応じて看取りを行うか、他施設、医療機関へ転院するか家族様の意向を確認している。家族様が施設での看取りを希望された時は、主治医の指示の下、訪問看護を導入し医療体制を整え看取りケアを行っている。	昨年、一人の入居者の看取りケアを行っている。入居時契約の際に、医療的措置はできないが看取りケアを希望する場合は可能なことを家族に伝えている。様態が変化した際にはさらにもう一度家族に確認を取り、看取りを行うかどうかの意思確認を行い、希望する場合はかかりつけ医や訪問看護師と連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員の理解に努めている。各会議を通して事故時の対応を見直し、消防の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行うことで、災害時の対応が出来るように努めている。また水や食料の準備もしている。	定期的に災害を想定して通報訓練や避難訓練を実施している。また、地域の方にも協力を依頼している。備蓄は3日間程度あるが備蓄品の交換時期なため、改めて何日間の水や食料が必要か検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックと不適切なケアの廃止と共に、当施設の理念でもある感謝の気持ち、思いやりの気持ち、その人らしく生活して頂くことを大切に支援を継続している。また不適切な声掛けがあれば、現場単位で注意しあっている。	新入職員には、統括管理者がマニュアルに基づいて、プライバシーが尊重された介護について説明している。プライバシーや尊厳については、ミーティングでも何度も取り上げ、職員の意識を高める努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選んでもらうこと、その場面を作ること、利用者の答えを待つこと、といった事を大切にできるように職員は日常的に心掛けている。また的確な表出の出来ない方に対しては、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての一日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて、その時々に応じた対応を心掛けている。本人が要望を出しやすいよう、日頃より利用者の話をゆっくりと傾聴するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣や整容・整髪などでの場面で少しでも自己決定の機会を多く持てる様に心がけている。また衣替えをし、季節に合った服装が選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供する際にはメニューを説明している。誕生日には本人の好きなものを作ったり、季節ごとのメニューを盛り込み日常の話題にして、食事を楽しみにしてもらえるよう支援している。また自立歩行の出来る方には、下膳をお願いしている。	昼食と夕食は外部業者が調理したレトルト食品を利用しており、朝食は職員が調理している。おやつも職員が調理するので、入居時の希望を取り入れている。また、家族から野菜の差し入れがあり、朝食で使うことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに応じてお粥やミキサー食、きざみ食にて対応している。水分補給時にはスポーツドリンクや高栄養飲料も用途に応じて摂取して頂いている。嚥下の悪い方にはトロミを使用し誤嚥に留意している。また摂取量のチェックをおこなっており、低栄養の方には主治医と相談しラコール、エンシユアを摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄やうがいができるように毎食後、時間を設ける。うがいが難しい方には口腔ケア用のウェットティッシュにて口腔内の食べ残しの除去を行う。義歯は夜間は外して頂き、洗浄剤につける。必要な方には、週に1度訪問歯科による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察表に記載した記録と職員の申し送りを元に、個々の排泄パターンを掴みトイレ誘導を行っている。必ずトイレで排泄する機会を設けている。居室へトイレを設置したり、尿量なども把握し適切な尿パッドを使用することで失禁の回数を減らすように努めている。	完全にオムツ使用の方は一名で、他の方はトイレに誘導し排泄している。退院後すぐに入居された方で、オムツ使用の方を適切な誘導でリハビリパンツ使用となった方もいた。常に排泄時を考え、日常生活を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表と普段の申し送りから、排便のペースを把握。排泄の促しを行い、効果的な服薬の実施、散歩などで運動の機会を増やすなどで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけをしてスムーズに入浴できる様に支援している。入浴が嫌いな方にも無理強いないよう声かけを工夫している。自立度の低い方には職員が2人で介助し、安心して入浴して頂けるよう努めている。季節で湯温やゆず湯なども取り入れ、日ごろからも入浴剤などで楽しみを演出している。	週に1~2回入浴しているが、希望があればいつでも入浴は可能としている。入浴を嫌がる方には声掛けのタイミングが重要で、様子を見計らい適時に入浴へ誘導している。入浴介助は、基本的に1対1の対応である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に差し支えない程度までは、個々の状況に合わせて消灯時間を決めず対応している。必要な方には適量の把握に努めながら睡眠薬を使用するとともに、日中の活動量を増やし安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬を職員が把握するよう努力し適切に服薬頂いている。薬の情報はファイリングしており、いつでも確認できるようにしている。服薬ミスの無いようにダブルチェックを行い、飲み込み確認まで徹底している。日々の様子観察を行い変化があれば迅速に主治医に報告指示を仰いでいる。□		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、草抜きなど出来ることを手伝ってもらい、職員は必ず感謝の気持ちを伝えている。気分転換に買い物や散歩など、感染症対策をした上で支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出の機会は減っているが、感染症対策した上で近隣へ買い物や散歩など外出をしている。ADLが落ちて外出が困難な方でも、日光浴といった方法で外気に触れられるように努めている。	近所のスーパーや薬局への買い物や近辺の散歩等の支援は行っているが、以前よりは減っている。気分転換を図るため、中庭に出て外気浴的な散歩も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員で管理している。可能な方には小遣い程度のお金を持ってもらっており、希望のものを購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることはないが、家族や知人から電話があれば取り次いだり、耳の悪い方については職員が変わり内容を説明している。年賀状は毎年送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地面積が狭い分、落ち着いた雰囲気でも過ごしてもらえるよう配慮し、生活感を感じてもらえる環境作りを心掛けている。(季節の花を飾る、行事写真を飾る、料理の香りや音などの生活感)	廊下には、定期的に季節の花を活けて季節を感じられるように配慮している。壁面は落ち着いた壁紙が施されており、入居者と職員との作品や写真、通信等が飾られており、くつろげる空間となっている。空調も寒暖計や湿度計を使って職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファで利用者同士で雑談などの交流があり、1人になりたい方は各居室で過ごす時間を持っていただき、それぞれに配慮している。季節行事の写真や季節に合わせた飾り付けをし、雰囲気づくりと話題づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅にいる時と同じよう配置し、希望があれば家具や家電を持参してもらっている。また家族様からの手紙や、写真なども飾ったりしている。	入居前に家族が部屋を見学し、職員と一緒に家具の配置や持ち込むものを考えている。掃除は定期的に行い、清潔を保っている。空調は職員が管理して、快適に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけ自分の部屋であることが認識できるようにしたり、各入居者の身体状況に合わせて安全面に配慮し、できるだけ自立した生活が送れるような環境整備と設備を整えている。		